



国連特別行事

UNITED FOR A CULTURE OF PEACE *Through Interfaith Harmony*

～ 宗教間の調和を通じた平和の文化のための結束～



May Peace Prevail on Earth

はじめに

この度、ニューヨークの国連総会議場において、国連総会議長、ユネスコ(国連科学教育文化機関)、国連宗教NGO委員会の主催で、「宗教間の調和を通じた平和の文化のための結束」の行事が行われ、私共、ワールド・ピース・プレイヤー・ソサエティ並びに姉妹団体の五井平和財団も後援の形で協力させていただくことができました。

ワールド・ピース・プレイヤー・ソサエティは、1988年にニューヨークに設立され、民族、文化、宗教、信条を超えた人類共通の平和の祈りのメッセージである“May Peace Prevail on Earth”「世界人類が平和でありますように」を様々な形で伝える活動を提唱し、行ってきました。1990年より国連NGOとして、国連内外でもこの活動を続けております。

設立25周年という記念すべき年に、私共が提唱し、長い間続けて来たワールド・ピース・フラッグ・セレモニーが、本行事においてプログラムの中に採用され、国連という場から世界各国の平和の祈りを発信できたことは、大変光栄な出来事でした。

様々な国籍を持つ国連スタッフや若者たちが、旗手となって誇らしげに自国の国旗を掲げ、会場全体が一つになって世界各国の平和を祈る姿を拝見し、大きな感動を覚えました。

ここに至るまで、長年に亘り、この草の根運動を支え続けてくださった皆様方に心より感謝し、この大きな喜びを分かち合いたく、特別号を刊行いたしました。私共のことを初めてお知りになる方にもお読みいただければ幸いです。

ワールド・ピース・プレイヤー・ソサエティ
代表 **西園寺 昌美** 理事長 **西園寺 裕夫**



本行事のご紹介

2013年2月14日、ニューヨーク国連本部の総会議場において、“United for a Culture of Peace Through Interfaith Harmony (宗教間の調和を通じた平和の文化のための結束)”という、イベントが開催されました。

本行事は、第67回国連総会議長、ユネスコ(国連科学教育文化機関)および、国連宗教NGO委員会の主催で行われました。また、グアテマラ、ヨルダン、イラク、カザフスタン、マレーシア、ニュージーランドの国連代表部が共催、リビア、フィリピン、サモア、ジンバブエの国連代表部、ワールド・ピース・プレイヤー・ソサエティ、五井平和財団が後援、さらに多くのNGO連合が協力団体として名を連ねました。

国連は、平和の文化を世界に広める上で不可欠である、宗教間の調和と結束を育むことを目的とした“World Interfaith Harmony Week(世界宗教間の調和週間)”を2011年から設けており、本行事はこの国連週間の主旨に沿って開催されました。

国連諸機関の代表、各国国連大使、宗教者、NGO代表らの講演、国連インターナショナルスクールの子どもたちやスピリチュアルなグループによるコーラスなど、多彩なプログラムが繰り広げられる中、世界各国の国旗を掲げ、1カ国ずつ平和を祈る「ワールド・ピース・フラッグ・セレモニー」が行事のクライマックスを飾りました。

3時間におよぶこの行事は、あらゆる違いを超えて、参加者全員で平和を発信するという、国連でも類を見ない機会となり、その模様はインターネットを通じて、全世界に生中継されました。

異なる国籍や宗教など、様々なバックグラウンドを持つ1500人が集った国連総会議場は、平和を願う思い、“May Peace Prevail on Earth(世界人類が平和でありますように)”によって一つにつながり、人類の多様性の素晴らしさを称え、認め合う「宗教間の調和を通じた平和の文化のための結束」に向け、大きな一歩を踏み出した瞬間となりました。

開会の辞



第67回国連総会議長
ブーク・イェレミッチ

国連は、平和の道を提唱する世界中の宗教指導者との協力を深めることによって、大いなる恩恵を得ることができると私は考えています。

信仰を持つ人々は、その違いに関係なく、すべての人々に敬意を表し、最も弱い者に思いやりを示すという、あらゆる宗教に共通する中心的な倫理の教えを改めて信奉すべきです。そして、礼拝の形式や住んでいる場所にかかわらず、自他すべての人の中に神の姿を認めるべきです。

対等の立場で互いに手を差し伸べ合い、異なる宗教の間で何世紀も続いた紛争による傷を癒すために本気で取り組みましょう。

本日、私たちは、宗教の名において繰り広げられる闘争や憎しみを乗り越え、この威厳ある機関、国連総会が真に「平和の総会」となるために、小さな一歩を踏み出したと信じています。



国連副事務総長
ヤン・エリアソン

多くの地域や国々が、宗教宗派間の対立によって引き裂かれている今日において、この行事は分裂を超える大切な機会であります。私たちは、平和の手段として信仰を復活させなければなりません。

世界のあらゆる偉大な宗教は、平和、人間の尊厳、他に対する敬意といった価値観を共有しています。国連もまた、これらの価値観を掲げていることを自負し、平和、発展、人権や法の支配のために尽力されている方々と力を合わせる機会を歓迎します。

この祝典が真に成功を収めるためにも、「尊敬」「寛容」「理解」といった言葉を、このような機会だけではなく日頃から使うべきです。そして、すべての人が尊厳を持って生きられるよう、これらの言葉を行動に移す努力を日々続けなければならないと思うのです。

The Role of Interfaith Harmony in the Peaceful Settlement of Disputes

紛争の平和的解決における宗教間の調和の役割

第1部 スピーチ



国連軍縮担当上級代表
アンゲラ・ケイン

宗教団体が平和構築活動に大きく貢献してきたことは、よく知られています。武装解除、動員解除、および再統合のプロセスに見られるように、武力紛争から復興途上にある人々の間に信頼を回復するうえで、宗教団体は重要な役割を果たしています。また、世界的核軍縮を熱心に支援してくれています。

宗教間の調和、そして世界の宗教と国連の働きとの間で進んでいる協調は、すべての人々の安全と福祉を促進する大きな潜在力を持っています。この総会議場で「世界宗教間の調和週間」を祝うにあたり、大変勇気づけられる思いがいたします。より良い世界の到来に向け、明るい展望が開けるからです。

平和、連帯、そして調和は各国政府だけでできる選択ではありません。異文化間、異宗教間の対話は、平和を成立させるために不可欠な基盤です。豊かな関係を築いて連帯を深めることは、社会や宗教指導者の責任です。

ユネスコが、宗教間対話を推進する目的は、様々な精神的伝統とその根本にある価値観について、相互に知識と理解を深めることです。現代の多文化社会において調和的共存の場を広げるためには、これが最善の方法であります。

ユネスコは、国連諸機関、各国政府、報道機関、宗教指導者、そして市民社会とともに、「日常的な平和」の基礎づくりに努力を惜しみません。地球のあらゆる場所がつながり合っている今、平和、調和、そして対話の価値を広め、人類共通の遺産にすることが何よりも大事なのです。



ユネスコ・ニューヨーク事務所所長
フィリップ・クリデルカ



フィリピン国連大使
リブラン・カバクトゥラン

本日は私たちにとって重要な日です。この特別な場所から、全世界に明確なメッセージを発信するという特別な目的をもって、私たちは集まりました。世界中の人々がたいなる調和、永続的な平和、相互理解と尊重の絆を深めることを望み、そのために力を合わせていることを世に示すのです。

このような特別行事は、真の対話に基づき平和の文化を育てる意義を再確認し、人々の意識を高める大事な機会であります。本日の行事、特にこのあと行われるパワフルで象徴的なセレモニーは、世界中の人々を結束させることでしょう。

私たちの人間としてのアイデンティティは、世襲的階級や性、宗教の名の下に分断され続けてきました。しかし、人類は多様性が故に、分断されるべきではありません。むしろ団結の灯を育み、世界を良い方向に変えていくべきなのです。

私たちユナイテッド・レリジョンズ・イニシアティブは、女性の経験と英知が平和構築と社会の発展に欠かせないと考えています。宗教間の調和を実現し、さらには国連の目的を果たすためにも、社会のあらゆるレベルで女性のリーダーシップへの支援を強化すべきではないでしょうか。

地球市民として、この世界をより安全で調和したものにするために、人類すべての参加を促していこうではありませんか。



ユナイテッド・レリジョンズ・イニシアティブ世界委員会議長
キラン・バリ



カザフスタン国連大使
ビルガニム・アイティモバ

グローバル化が進む中、平和に対する新たな脅威が複雑に絡み合う現在、進歩とは何か。その知的、道徳的基盤について改めて考える時が来ています。世界の平和と繁栄に資する考え方や言動、すなわち宗教や精神性に根差した人間的価値を再確認することが緊急の課題となっています。

日常的な平和は、学校や大学、教会や寺院といった地域社会の草の根レベルで育まれるものです。紛争の解決や予防、紛争後の復興や人道支援を行うにあたって、既に大きな働きをしている宗教指導者や宗教団体・運動の力を十分に生かし、官民学等、あらゆる分野が連携することが肝要であります。

我が国は、国連と共に様々な宗教との取り組みを推進し、持続可能な平和を通して、持続可能な人類の未来を守るために尽力することをお約束いたします。



イラク国連大使
ハミッド・アルバヤティ

私たちは皆、アダムとイブの末裔です。一つの大きな家族なのです。このことは、あらゆる宗教の聖典、そして科学も認めているところです。

「お互いに愛し合いなさい」、「傷つけ合ってはいけない」、「貧しい人、困っている人を助けなさい」というメッセージは、世界中のどの宗教も預言者も等しく言っていることなのです。

この大事な会合を催してくださった方々に感謝します。私たちには、ここ国連から平和のメッセージを広める役目があります。それは宗教間の調和を通して、私たちは平和の文化のために結束しなければならないというメッセージであります。

暴力ではなく、平和こそが紛争解決の手段であり、宗教はそのために不可欠な役割を担っている。そのような信念を共有する人々の集まる祝典でお話しさせていただくことは、真に光栄なことです。

あらゆる宗教指導者たちは、率先して暴力反対の声を上げなければなりません。決して紛争を終わらせるための手段として暴力を認めてはいけません。

文化間の紛争を克服するには、共通の土俵と価値観を見出すことが大切です。聖書には、「正義」「慈悲」「許し」「悔い改め」といった原則がありますが、これらはほとんどの宗教や人権法とも相通する価値観であります。このような共通の価値観を見出すことは、包括的で持続的な問題解決の一助となるのです。



ギリシア正教
アメリカ大司教区神父
ナサニエル・シメオニデス

古代中国の儒教の教えの中で、平和は中心的な価値観であり、それは、今日まさに、宗教、文化、文明、国々の間に、有効な架け橋を築くことができるものです。

孔子の哲学は、人間が持つ関係には、「天地人」という3つの領域があるとしています。人は、他人との関係、地球との関係、そして天との関係のすべての中に平和を見出さなければなりません。

自分を愛するように互いに愛し合い、自分の国を敬い、愛するように互いの国を敬い、愛することで、平和を見出しましょう。それが私のビジョンであり、今日ここに捧げる祈りです。



チャイナ・エネルギー基金委員会
事務局長
パトリック・ホー

Symphony of Peace Prayers

平和の祈りの交響曲

■第2部 オープニング・スピーチ

宗教の違いを超えて魂をつなぐ祈りのハーモニー

ワールド・ピース・プレーヤー・ソサエティ代表
白光真宏会会長

西園寺昌美

ここ国連総会議場に、このように多くの方々がお越しになったことに感激しております。国連は世界の雛形です。ここでは各国のリーダーの皆様がお集まりになり、私たち人類の未来について話し合いが行なわれています。そのような意義深い場で、この催しを共に開催させていただけますことは、この上ない名誉であります。

世界中のワールド・ピース・プレーヤー・ソサエティの賛同者は、日々、世界の平和を祈ってまいりました。この長年の祈りを基盤として、日本において初めて「シンフォニー・オブ・ピース・プレーヤーズ」を開催したのは2005年のことでした。この催しは、異なる宗教や文化を持つ人々が集い、声一つに世界と地球の平和を祈るといふ、過去に類を見ないものであります。現在では52カ国以上で開催され、世界中で延べ100万人以上の方が参加しています。

どの宗教にも平和の祈りがあり、いずれも気高く神聖であります。これらのお祈りを拝聴しますと、美しく、感動的で、神秘性に包まれます。それぞれ異なったメロディーを持ちつつも一つに合わさり、至高のハーモニーを織りなすことを、私たちは体験を通して知っております。私たちの魂は、すべての違いを超え、一つになり喜びあうのです。

祈りは愛です。光です。パワーです。そして、復活のエネルギーであります。祈りは人類一人一人に内在する神聖な心と呼び覚ますのであります。そのために、私はこの「シンフォニー・オブ・ピース・プレーヤーズ」を始めようと思立ちました。全人類が皆、祈りに加わり、壮大なシンフォニーを共に奏でられるようにと。どのような信仰・信条を持つと、私たちは平和の名のもと一つになることができます。この「シンフォニー・オブ・ピース・プレーヤーズ」の織りなすハーモニーによって、私たちは互いへの尊敬と感謝の心を表現し、魂を揺さぶる深い感動を覚えるのです。

この度、この「シンフォニー・オブ・ピース・プレーヤーズ」の精神が国連でも受け入れられることになり、私は喜びにたえません。

人々の想いが、闘争、差別、宗教対立に捉われている限り、この世界に真の平和は訪れません。真の平和と調和を地上にもたらしたいのなら、相対的な考えを超越して、私たちの意識を高め上げなければなりません。

今日、国連において捧げられる様々な宗教や伝統的な祈りは、私たちが分離の壁を超えることを助け、地球社会に新しい神聖な息吹を与えることなのでしょう。この催しが、明るく平和な未来への歴史的な幕開けとなることを私は確信しております。

皆様一人一人は、世界に平和を創造するための尊い存在です。心を鎮め、地球に、人類に、海に、山に、生きとし生けるものに、愛と癒しのエネルギーを送りましょう。共に素晴らしい平和の祈りの交響曲を宇宙に鳴り響かせましょう。世界人類が平和でありますように。



第2部では、Symphony of Peace Prayers(シンフォニー・オブ・ピース・プレーヤーズ)の提唱者である西園寺昌美代表が、その意義について語り、続いて各宗教の代表者11名による平和の祈りが順番に捧げられました。真摯な祈りは、静かで美しいフルートの音色にのり、会場を崇高な雰囲気包みこんでいきました。

各宗教の代表者

ブラジル・アマゾン先住民族 トゥウェ・フニ・クイン (フニ・クイン・コミュニティ)



私たちが調和して働くことにより、生物の多様性を守り、地球上の生きとし生けるものの生命の質を保證することができますように。

パハイ教 カロリナ・バスケス (パハイ・インターナショナル・コミュニティ)



人類よ、あなた方は同じ土から創られたのであるから、皆平等な一つの魂として、一体性を顕現する務めがあるのです。

仏教 スン・ウォン導師 (韓国禅仏教 社会部門ディレクター)



私たちが苦しみから解放され、幸福に生きられますよう、私たちの目を開かせたまえ。私たちが隣人愛を育み、人類全体の平和を築けますように。

キリスト教 キャスリーン・ストーン師 (ユナイテッド・メソジスト教会)



神よ、私たちが和解へとお導きください。異邦人や敵を自らの腕の中、生き方の中に受け入れられるように。そして公正で寛容な人間関係を築き、平和と調和を祝い合えるように。

ヒンズー教 パラメッシュナンダ師 (プハラット・セヴァシラム・サンハ)



私たちが宇宙の創造主の栄光について瞑想します。創造主が、私たちの心を開き、悟りへ導き、全てを救いへと誘ってくださいますように。

ヒューマニスト ルーシー・シュミッツ (倫理文化協会 ナショナル倫理サービス)



今日、私たちが最も緊急にしなければならないことは、人類が共通の利益を共に追求するという新しい時代が、手に届くところであると認識することだと思います。

ジャイナ教 アペクシャ・ヴォラ (アマブラット・グローバル・オーガニゼーション)



完成された人、解脱した人、宗教指導者、宗教の師とすべての僧侶、尼僧に敬意を表し、インスピレーションを求めることは、すべての罪を消し去る最も良き行いです。

ユダヤ教 マイケル・ワイザー師 (フラッシング・フリー・シナゴグ)



私たち兄弟姉妹が、仲良く共生することはなんと素晴らしいことでしょう。神が私たちの神性を喚起され、内なる平和の祝福をお与えくださいますように。

イスラム教 イザック・エル・M・パシヤ師 (マスジッド・マルコム・シャバツ)



かつて人々は、人間を肌の色で差別していませんでした。人々は皆、一つの源から生まれ、一つの生命から来たものであることだけを知っていたのです。

シーク教 ジャティンダー・シン (ユナイテッド・シーク 地域ディレクター)



聖者と共にあることで、すべての敵が友に変わり、純粋に生きられるようになる。なぜなら聖者と共にあることで、神の至福が誰の中にも存在することに気づくからです。

ゾロアスター教 ニーナ・ミストリー (北米ゾロアスター教協会連盟)



賢明なる主よ、あなたのような権威と力を、真理を通して私たちに与えたまえ。私たちが良き心をもって、主の平和と幸福を世界にもたらすことができますように。



World Peace Flag Ceremony

世界各国の平和の祈り

世界各国の国旗を一国ずつ掲げながら、平和を祈るワールド・ピース・フラッグ・セレモニーが行事のクライマックスを飾りました。色鮮やかな国旗を掲げる国連スタッフと学生、そして紙国旗を手にした参加者たちは、祈りが進むにつれ、歓喜と興奮に包まれ、最後は“May Peace Prevail on Earth”の大合唱となりました。あらゆる違いを超えて一つになった姿が、まさに体现された瞬間でした。



■ 第3部 オープニング・スピーチ

多様性を喜びあう世界へ

ワールド・ピース・プレイヤー・ソサエティ理事長
五井平和財団 理事長

西園寺裕夫

ここ国連総会議場においてワールド・ピース・フラッグ・セレモニーを行えますことを、大変光栄に思います。

私たちは「メイ・ピース・プリベイル・オン・アース」という普遍的なメッセージを、長きにわたり、発信してまいりました。このメッセージは、文化、宗教、政治などの違いを超えて、人々の心をつなぐものです。

私の傍らには、ピースポールが立っています。これは「メイ・ピース・プリベイル・オン・アース」という平和のメッセージが、6カ国の国連公用語で刻まれたものです。現在までに、世界中のほとんどすべての国に、20万本以上のピースポールが建立され、各国語による平和のメッセージを発信しております。

ワールド・ピース・フラッグ・セレモニーもまた、私たちが平和の精神を分かちあう方法です。このセレモニーは、世界中の一国一国の国旗を掲げながら、それぞれの国の平和と幸せを願う行事です。これは現在、世界中で様々な機会に行われています。1990年には、ここ国連総会議場でも行なわれました。自国の平和を祈ると同時にお互いの国をも等しく称え、敬うという精神が、世界平和の原点であると私たちは信じております。

ちょうど10年前の2003年2月1日、スペースシャトル・コロンビア号の宇宙飛行士ウィリアム・マックール氏は、宇宙から地球を見てこう語りました。

「ここから見える地球には、国境がなく、平和と美と壮麗さに満ちています。全人類が、今見ているような国境のない世界を思い描き、平和の中で一つになって生きられるよう、私は祈らずにはいられません。」

この言葉は、彼が事故で亡くなる前の最後の言葉です。それは人類に託した遺言であったと思います。宇宙から見る地球には国境など存在せず、まさに光り輝く一つの生命体です。人類も動物も植物も、すべての生きとし生けるものは、この地球という生き生きとした生命体を構成している大切なメンバーであり、平和で美しいこの星を未来の世代に引き継いでいくことこそが、私たちの使命であり、責任であります。

現在、地球上には、190カ国以上の国があり、約70億の人々が、何千もの言語や多様な宗教を持つ多民族として存在しています。私たちは皆、それぞれが固有の文化、伝統、習慣、信条を持つ唯一無二の存在です。平和になるためには、皆が同じになる必要はありません。それぞれの違いを理解し、尊重し、多様性を喜び合えるようになった時、真の平和の文化が築かれるのだと私は考えます。

今まさに始まるワールド・ピース・フラッグ・セレモニーでは、世界の国々の様々な色彩を楽しんでいただきたいと思います。

皆さん、どうぞ一緒に「メイ・ピース・プリベイル・オン・アース」という言葉で始め、193カ国の国連加盟国と二つのオブザーバー国に向けて、一国一国の平和を呼びかけましょう。世界の調和と平和という共通の目標に向かって、共に声を上げましょう。



最後に国連旗を掲げる
パン・ギムン国連事務総長夫人
©UN Photo/ Devra Berkowitz



参加者の声

フラッグセレモニーは、私が今まで参加したセレモニーの中で一番感動的でした。宗教の違いを超えて、平和を祈るという行為を文字通り形にし、お互いを祈り合うことができました。錚々たる参加者で埋められた会場全体でアルファベット順にすべての国の平和を大きな声で祈れたことは、本当に素晴らしかったです。
リリー・カルカニーニ(高校生)

このような国連のイベントに参加したのは初めてですが、私にとっても生徒たちにとっても忘れ難い経験になりました。皆、「素晴らしい体験だった。人生のハイライトだった」と興奮しながら感想を述べていました。今日のすべての祈り、思い、行動が世界の平和に向けて集合意識にしっかり根付き、力強く地球に反映されることと思います！
ジョアン・マーフィー(フェアリー・ディクソン大学 グローバル学習室。生徒60名が旗手にボランティア)

今日、今まであり得ないと思っていた異文化、異宗教が完璧に調和する姿をこの目で見ました。世界の和解に向けた大きな一歩だったと思います。私たち人類は一つの大きな家族なんですね。 スンジュー・ハ(高校生)

おめでとうございます！これ以上のセレモニーはないのではないかと思います。完璧で、参加したすべての人の心に響く、感動的な行事だったと思います。まさに傑作でした。 シスター・セシル・メイヤー(聖心会)



インターネット中継でも、国連総会議場に平和と愛と喜びが溢れているのがわかりました。特に195カ国の国旗が掲揚され、全員で“May Peace Prevail on Earth”を繰り返したあの瞬間、世界が一つにつながったと思います。 パーバラ・ウルフ(グローバル・メディテーションズ・ネットワーク)

大成功おめでとうございます。想像をはるかに超える素晴らしい行事でした。このインターフェイスの行事は間違いなくさらに成長し、発展していくことでしょう。 アイリス・スプリングス(「平和の文化」世界運動)

スタッフをはじめ、政府高官、各宗教リーダーの方々、そして参加されたすべての方々がこの日に向けて費やした時間、深い理解、成功への強い決意には圧倒されるばかりです。今日は会場中にずっと光、愛、感謝が満ち溢れていました。世界人類が平和でありますように。
カトリーナ・サボルサントス(ソプラノ歌手)



西園寺昌美さんの象徴的な言葉「祈りは光、パワー、復活のエネルギーであり、人類一人一人の神性を目覚めさせる力を持っている」で始まった11の聖なる祈りによるシンフォニーは、私の心を奥底から揺さぶりました。プログラムのすべてが素晴らしく、大切な価値観を目覚めさせてくれるものでした。

ジョルジーナ・ガラニス(インスティテュート・フォー・バルカン・リレーションズ)

このイベントに私と生徒たちを招待くださったことを、なんと感謝したら良いのでしょうか。本当に見事なイベントでした。生徒たちは、毎日の祈りの意義深さを改めて感じたようですし、これからの希望もいっぱい抱えて、興奮状態のまま帰っていきました。
パトリシア・ブルマン(デ・ポール・カトリック・ハイスクール)

旗を掲げた人々はその国の出身者で、今日のその国の代表者です。彼らの姿はとて誇らしげで歓喜に満ちていた。まさに快挙の一日です。フィナーレ後、椅子にもたれ、満面の笑顔で抱き合っ喜び合う参加者たちの姿を見るうち、私は心から溢れ出る喜びに包まれていきました。今日の3時間は、私たちの未来を創造した時間です。

チャールズ・ギブス(ユナイテッド・レリジョンズ・イニシアティブ 常任理事)



United for a Culture of Peace Through Interfaith Harmony

～宗教間の調和を通じた平和の文化のための結束～

日時/2013年2月14日(木) 10:00～13:00

会場/国際連合本部 総会議場(アメリカ・ニューヨーク)

主催/第67回国連総会議長 ブーク・イエレミッチ、ユネスコ(国連教育科学文化機関)、国連宗教NGO委員会

共催/グアテマラ国連代表部、ヨルダン国連代表部、イラク国連代表部、カザフスタン国連代表部、マレーシア国連代表部、ニュージーランド国連代表部

後援/リビア国連代表部、フィリピン国連代表部、サモア国連代表部、ジンバブエ国連代表部、ワールド・ピース・プレーヤー・ソサエティ、五井平和財団

協力/Global Movement for the Culture of Peace (「平和の文化」世界運動)

NGO Committee on Freedom of Religion or Belief (宗教・信条の自由に関するNGO委員会)

NGO Committee on Spirituality, Values & Global Concerns-NY

(スピリチュアリティ・価値・世界的問題に関するNGO委員会)

NGO Committee on the United Nations International Decade of the World's Indigenous Peoples (国連「世界の先住民の国際の10年」NGO委員会)

Spiritual Caucus at the United Nations (国連スピリチュアル会議)

Values Caucus at the United Nations (国連価値会議)

プログラム

開会の辞 第67回国連総会議長 ブーク・イエレミッチ
国連副事務総長 ヤン・エリアソン
歌 唱 カトリーナ・サボルサントス

第1部 The Role of Interfaith Harmony in the Peaceful Settlement of Disputes

〈紛争の平和的解決における宗教間の調和の役割〉

国連軍縮担当上級代表	アンゲラ・ケイン
ユネスコ・ニューヨーク事務所所長	フィリップ・クリデルカ
カザフスタン国連大使	ビルガニム・アイティモバ
ギリシア正教アメリカ大司教区神父	ナサニエル・シメオニデス
フィリピン国連大使	リブラン・カバクトゥラン
ユナイテッド・レリジョンズ・イニシアティブ世界委員会議長	キラン・バリ
イラク国連大使	ハミッド・アルバヤティ
チャイナ・エネルギー基金委員会事務局長	パトリック・ホー

第2部 Symphony of Peace Prayers

〈平和の祈りの交響曲〉

ワールド・ピース・プレーヤー・ソサエティ代表、白光真宏会会長 西園寺昌美

各宗教代表者 **ブラジル・アマゾン先住民族** トウウェ・フニ・クイン(フニ・クイン・コミュニティ)、**バハイ教** カロリナ・バスケス(ハイ・インターナショナル・コミュニティ)、**仏教** スン・ウォン導師(韓国禅仏教 社会部門ディレクター)、**キリスト教** キャスリーン・ストーン師(ユナイテッド・メソジスト教会)、**ヒンズー教** パラメシヤナンダ師(プハラット・セヴァシュラム・サンハ)、**ヒューマニスト** ルーシー・シュミッツ(倫理文化協会 ナショナル倫理サービス)、**ジャイナ教** アベクシヤ・ヴォラ(アヌプラット・グローバル・オーガニゼーション)、**ユダヤ教** マイケル・ワイザー師(フラッシング・フリー・シナゴグ)、**イスラム教** イザック・エル・M・バシヤ師(マスジッド・マルコム・シャバズ)、**シーク教** ジャティンダー・シン(ユナイテッド・シーク 地域ディレクター)、**ゾロアスター教** ニーナ・ミストリー(北米ゾロアスター教協会連盟)

フルート演奏 ジョン・ブロンド
コーラス 国連インターナショナルスクール ジュニア4・クワイア

第3部 World Peace Flag Ceremony

〈世界各国の平和の祈り〉

ワールド・ピース・プレーヤー・ソサエティ理事長、五井平和財団理事長 西園寺裕夫

ワールド・ピース・フラッグ・セレモニー

ボイスリーダー **ノエル・ブラウン** (国連友の会理事長)

川村真妃 (五井平和財団常務理事)

ピアノ演奏 クリス・ファレル

コーラス ユニティ・メイド・ヴィジブル・インターフェイス・クワイア

閉会挨拶 国連宗教NGO委員会会長 モニカ・ウィラード



The World Peace Prayer Society(ワールド・ピース・プレーヤー・ソサエティ)は、
1988年に米国の非営利法人として設立以来、
”May Peace Prevail on Earth(世界人類が平和でありますように)”の
民族・文化・宗教・信条を超えた人類共通の平和の祈りのメッセージを広める様々な活動を提唱し、
草の根の平和運動を推進しています。
1990年には国連広報局より提携NGOとして承認されました。
ワールド・ピース・プレーヤー・ソサエティの活動は、ご支援くださる皆様のご寄付でなっております。
皆様のご協力に心より感謝を申し上げます。

ワールド・ピース・プレーヤー・ソサエティニュース特別号
2013年4月25日発行
発行人 吉川里香
編集人 望月八潮、矢澤由美子
発行所 ワールド・ピース・プレーヤー・ソサエティ 日本オフィス
〒102-0093
東京都千代田区平河町1-4-5 平和第1ビル (五井平和財団内)
TEL 03-3265-2071 FAX 03-3239-0919
www.wpps.jp info@wpps.jp